

まい 埋やちよ

No. 37

千葉県八千代市
埋蔵文化財通信
2017. 8. 1
(平成 29 年)

速報 蛸池台遺跡採集の弥生土器

はじめに

今回の特集では蛸池台遺跡^{たこいけだい}で採集された弥生土器について見ていきたいと思ひます。

蛸池台遺跡の概要

蛸池台遺跡は八千代市米本に所在し、西に新川の低地を臨む台地上に位置しています。『千葉県埋蔵文化財分布地図(1) 一東葛飾・印旛地区(改訂版)』(財団法人千葉県文化財センター編 1997)によると、本遺跡の時代は縄文時代・古墳時代・奈良時代・平安時代とされています。

蛸池台遺跡での発掘調査については1度だけ確認調査が行なわれ(a地点)、その時は古墳時代前期と考えられる溝跡が1条検出されました。

弥生土器採集の経緯

蛸池台遺跡の範囲内にあたる畑で耕作者が農作業中に土器を採集したという連絡が2015年11月末にあり、市の文化財担当者が現地に行ったところ、多数の弥生土器が確認されました。発見者の話によると土器が採集された深さは地表面下70~85cm程度ということであり、このことから堆積土やその出土状況により竪穴建物跡からの出土と推察されました。

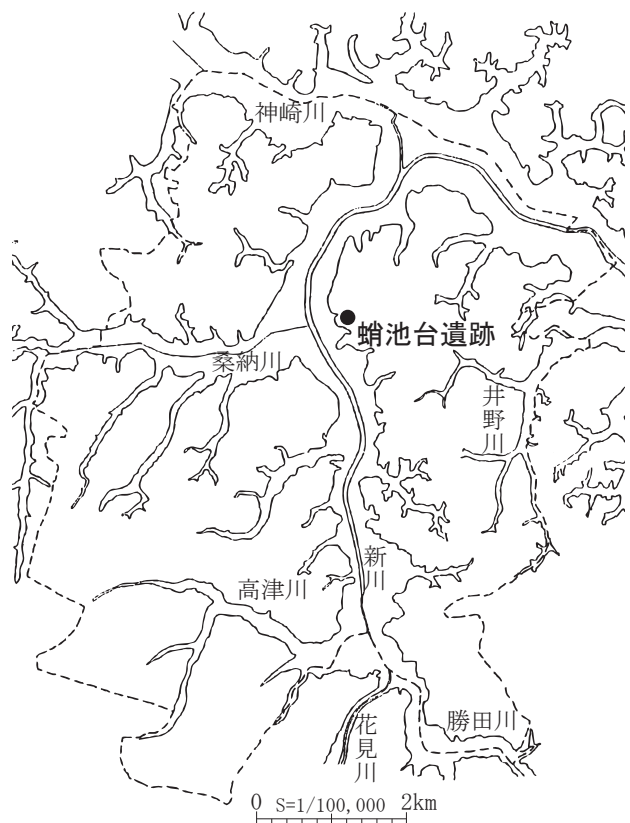
採集された弥生土器の特徴

昔の人々は時期によって特徴が異なる土器を使っており、考古学界は「〇〇式土器」という

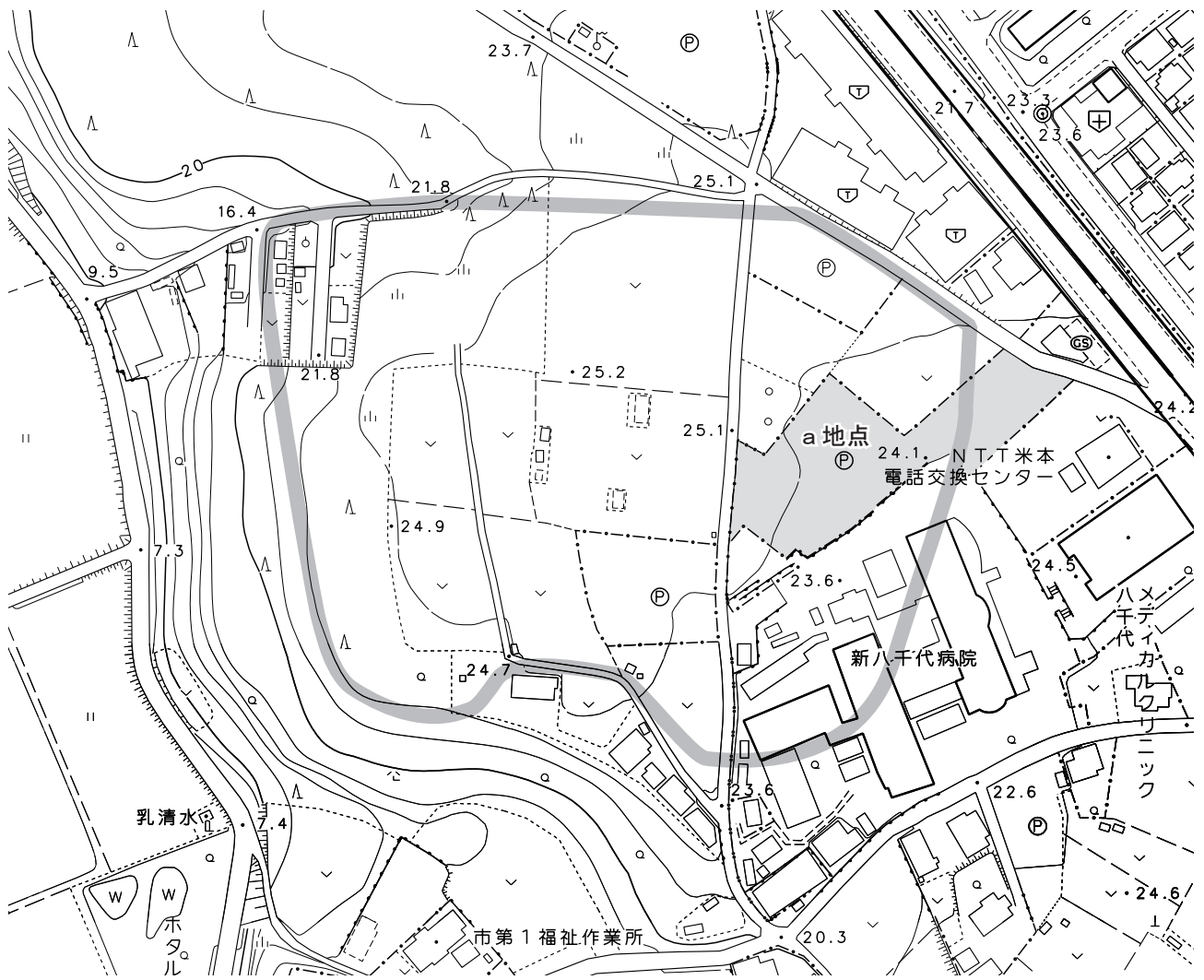
名称を与えることでそうした違いを認識しています。今回採集された弥生土器は「宮ノ台式土器(以下宮ノ台式)」というもので、弥生時代中期末、およそ紀元前1世紀~紀元後1世紀の時期にあたると考えられます。

それでは、以下で今回採集された土器の特徴について詳しく見て行きたいと思ひます。

第3図1は完形の壺形土器で、縄文が施された後にヘラ状の工具で描いた螺旋状の線が施文されています。頸のあたりには粘土紐が貼りつ



第1図 蛸池台遺跡の位置



第2図 蛸池台遺跡の範囲

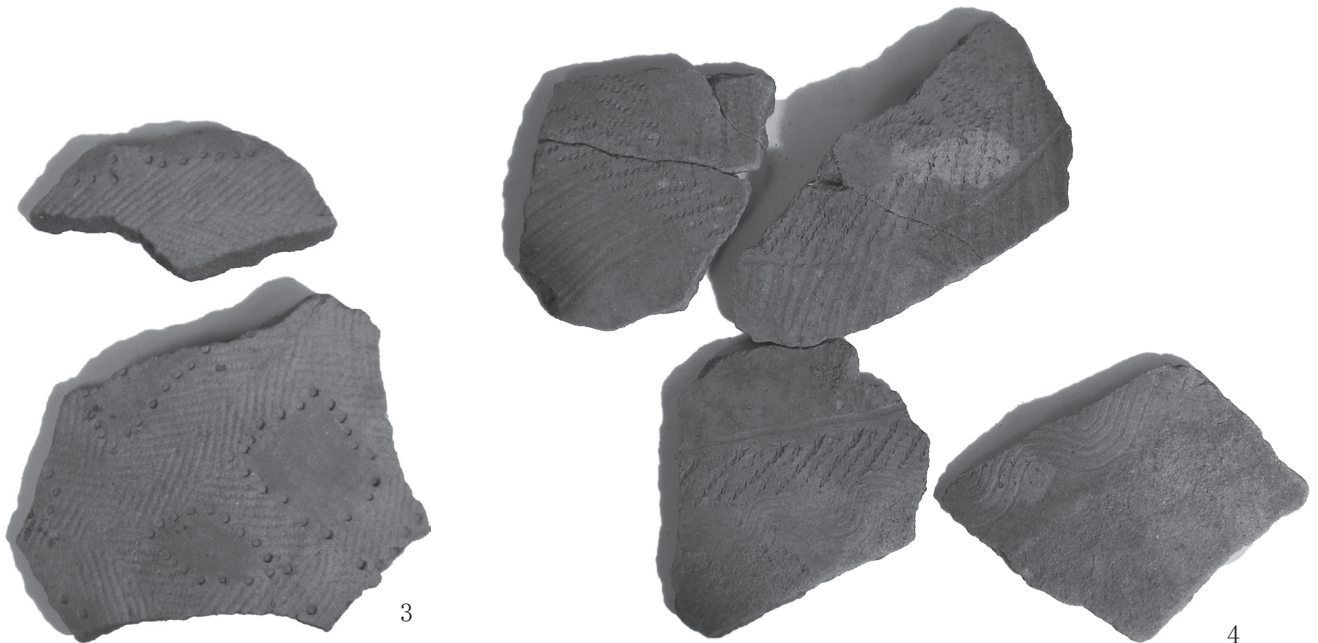
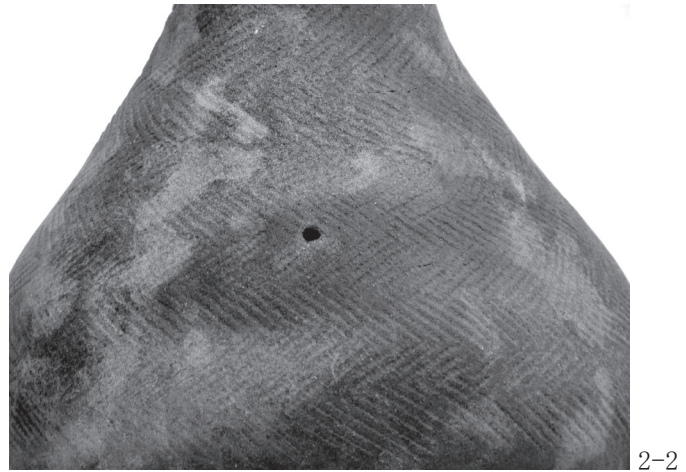


1-1



1-2

第3図 蛸池台遺跡で採集された土器1



第4図 蛸池台遺跡で採集された土器2

けられ、そこにヘラ状工具で縦方向の線が連続的に施されています。

第4図2も壺形土器で、頸から上は欠損しています。附加条縄文という少し変わった撚り方をした縄文が頸のあたりから胴部にかけて施されています。さらに胴部には焼成後に故意に穴を空けたいわゆる「焼成後穿孔^{しょうせいごせんこう}」も見られます。

第4図3も壺形土器の破片で、いわゆる「羽状縄文」が施され、縄文帯を断面円形の細い棒状工具で刺突して区画しています。なお、こうした文様間には赤彩も施されています。

第4図4も壺形土器の破片で、上から縄文、

ヘラ状工具による横方向の直線と三角文、再び縄文、そして櫛状^{くし}工具による波状文が施されています。

第5図5は胴部～底部まで残っている甕形土器で、内面にはコゲが見られることから煮炊きに使われたと考えられます。外面には木の板で器面をナデたハケ調整というのが見られ、内面は磨きこまれて光沢が見られます。

第5図6も甕形土器で外面にスス、内面にコゲが見られることから煮炊きに使われたものと考えられます。器面の外側と内側にはハケ調整後にミガキ調整が施されており、口縁部にはハ



第5図 蛸池台遺跡で採集された土器3

ケ工具を押し付けた文様が施されています。

第5図7はいわゆる「手づくね土器」で、器面はキレイに整えていないことから凹凸が激しく、粘土紐を積み上げた痕もはっきりと確認できます。一方、焼成前に空けた二個一対の孔が口縁部下に二ヶ所見られます。

まとめ

『千葉県埋蔵文化財分布地図(1) — 東葛飾・印旛地区(改訂版)』では蛸池台遺跡が弥生時代に属する遺跡とは認定されていません。そのため、今回採集された弥生土器とその出土状況は弥生時代の遺構・遺物、そして集落跡が本遺跡に存在することを明示しており、新たな発見となりました。

次に、学術的な意義についても触れたいと思います。第4図2・3に見られる羽状縄文は宮ノ台式の終末期によく見られるものです。したがって、蛸池台遺跡の集落では少なくとも宮ノ台式終末期に生活を営んでいた人々がいたと考えられます。八千代市では栗谷遺跡や上高野白幡遺跡、逆水遺跡などで宮ノ台式期の集落跡が確認されていますが、いずれも宮ノ台式中頃の集落跡でした。そのため、宮ノ台式終末期の集落跡が蛸池台遺跡に確実に存在すると判断できる今回の発見は八千代市の弥生時代を考える上で重要な発見と言えるでしょう。

さらに、もう少し広い目で見てみると印旛沼沿岸でも宮ノ台式終末期と考えられる集落跡の発見数は少ないため(小倉 2014)、今回の発見は印旛沼沿岸における弥生時代の歴史にも新たな1ページを刻むものと言えるのではないのでしょうか。

参考・引用文献

小倉淳一 2014「印旛沼周辺地域の宮ノ台式土器出土遺跡の変遷 — 壺形土器を中心として —」『法政考古学』第40集 法政考古学会
財団法人千葉県文化財センター編 1997『千葉県埋蔵文化財分布地図(1) — 東葛飾・印旛地区(改訂版) —』(財)千葉県文化財センター
八千代市教育委員会編 2009『千葉県八千代市内遺跡発掘調査報告書 平成20年度』八千代市教育委員会

埋(まい)やちよ No.37
—千葉県八千代市埋蔵文化財通信—

平成29年8月1日

編集・発行 八千代市教育委員会

教育総務課 文化財班

八千代市大和田 138-2

☎ 276-0045 ☎ 047(481)0304



やっち